

# さぐってみよう昔の暮らし | 昔の道具と暮らし

## 1 単元の概要

私たちは便利な道具に囲まれ、快適な生活を送っています。しかし、今の生活は地域の人々の昔の生活における知恵や工夫の積み重ねによってもたらされたものです。そこで、地域に残る昔の道具を調べ、地域の人々の生活がどのように移り変わってきたか、また、昔の生活における人々の生活の知恵について学習していきましょう。

## 2 学習のねらいと手だて

- 昔の道具やそれらを使っていた頃の暮らしの様子について見学・調査したり、年表にまとめたりして人々の生活の変化や過去の生活における人々の知恵を考えるとともに、地域社会に対する誇りと愛情をもたせる。
- 地域の昔の道具を観察したり、道具の使い方を調べたりして当時の暮らしの様子を考えさせる。



探究館（昭和30年代の社宅の生活）

## 3 指導計画（総時数8時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 社会科資料室や自分の家にある昔の道具に着目し、博物館にある昔の道具を調べる計画を立てる。	○ 教科書などを使って、地域に残る昔の道具について調べる意欲を高める。	1時間
II 昔の道具調べをして、その頃の暮らしの様子を調べる。 ① 居間の道具 ② 台所の道具 ③ 暮らしの様子	■ 博物館での学習 ○ 約100年前の農家、昭和30年代の社宅、そして現在の台所や居間を比べ、暮らしの様子の違いを考えさせる。 ◆ 文化学習園「昭和初期の農家」 ◆ 探究館「昭和30年代の社宅」	2時間
III 地域の方と実際に昔の道具を使ったり、地域の方にその頃の暮らしの様子を聞いたりする。	○ 探究館展示映像をもとに、当時の町の様子を具体的にとらえることができるようにする。 ◆ 探究館展示映像「昭和30年代の北九州」①②	2時間
IV 道具の移り変わりの様子を年表にまとめ、暮らしの移り変わりについて話し合う。	○ 年表をもとに道具の移り変わりや、人々の暮らしの様子を関連させて話し合い人々の生活が変化してきたことや人々の願いを考えるようにする。	2時間
V スピーチ大会を開く。	○ わかったことをもとにスピーチ大会を行い、道具の移り変わりによって、人々の暮らしが便利になったことをとらえられるようにする。	1時間

## 4 学習展開例（2時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
<p><b>古くから残る道具や、それらを使っていた頃の暮らしの様子について調べよう。</b></p>		
<p>I 文化学習園の農家（約100年前）を見学する。</p> <p>① 農家の展示物を見て展示解説を読んだり、教師の説明を聞いた後、家の中の様子や道具の名前や使い方、工夫点を調べる。</p> <p>② 田畑の仕事をする道具を調べて、人々の工夫や知恵を考える。</p>	<p>○ 建物の外観を見て、現在の家との違いに気付かせる。</p> <p>○ 廊下のガラスの入口に展示されている版画から、当時の暮らしをとらえられるようにする。</p> <p>○ 居間では、囲炉裏や箱膳の使い方や工夫点に気付かせる。</p> <p>○ 台所では、かまどやはがま、水がめ、屋外の井戸に目を向けさせ、現在の道具との違いについて考えさせる。</p> <p>○ 農具の使い方、工夫を調べ、田畑の仕事が効率的にできるようになったことに気付かせる。</p>	<p>◆文化学習園 「農家（約100年前）」 ◆片山正信作 「大正走馬燈」</p>
<p>II 探究館の昭和30年代の社宅（約50年前）を見学する。</p> <p>① 社宅の展示物を見て展示解説を読んだり、教師の説明を聞いた後、家の中の様子や道具の名前や使い方、工夫点を調べる。</p> <p>② 社宅に住む家族の1日の暮らしや映像資料を見て、昔の人々の生活の様子を知る。</p>	<p>○ 建物の外観を見て、現在の家との違いに気付かせる。</p> <p>○ 居間では、一つの部屋で家族が寝食をともにしていたことや火鉢、ちゃぶ台等の使い方や工夫点に気付かせる。</p> <p>○ 台所では、かまどや水道、はだか電球に目を向けさせ、100年前の農家の台所や現在との違いについて考えさせる。</p> <p>○ 家族の会話や街頭に映し出される人々の会話からも昔の暮らしの様子をとらえさせる。</p> <p>○ 電化されていない時代の生活を想像させる。</p>	<p>◆探究館 「昭和30年代の社宅」</p> <p>◆街頭の映像資料</p>
<p>III 調べて考えたことをまとめる。</p>	<p>○ 現在の自分たちの生活と比べ、道具が変わることによって暮らしがどう変化してきたか考えさせる。</p>	

5 博物館での学習

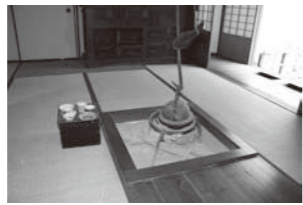
地域に残る昔の道具や、それらを使っていた頃の暮らしの様子について調べよう。

博物館での学習 2時間

事前に、ホームページで「文化学習園」を開くと、北九州に多く見られた農家(約100年前)が復元された様子を見ることができます。また、「探究館」を開くと、昭和30年代の八幡製鐵所社宅(約50年前)が再現され、そこで暮らす家族の様子が紹介されています。昔の道具や生活の様子で、調べたいことを考える学習問題づくりのきっかけを得ることができます。



文化学習園の農家(約100年前)



囲炉裏



水がめやかまど

博物館では、文化学習園から探求館の順で見学し、時代が変わると家の中の様子や生活が変わっていくことをとらえさせます。また、調べる際には、「台所」と「居間」の様子に着目させ道具や暮らしの変化を具体的に調べ、ワークシートにまとめるようにします。

まず、文化学習園では、建物の外観や版画を観察させ、自然と関わって生活をしてきたことをつかませます。内部では、囲炉裏、箱膳等や米づくりの農具を調べ、ワークシートの1に書き込ませてください。囲炉裏や箱膳からは、居間での暮らしの様子を知ることができます。台所にあたる土間には、はがまの使い方を示したかまどや井戸水を貯める水がめがあり、食事の支度をするためには、火おこしや水汲みなどの労働があったことを知ることができます。農具には、電気を使わずに効率よく作業を進められるように人々の知恵がこめられていることが分かります。

次に、探究館では、昭和30年代の社宅の玄関、土間の台所、和室二間が再現されていて、当時は一つの部屋で家族が寝食をともにしていた様子を知ることができます。居間になっている和室では、はだか電球、ラジオ、火鉢、家具などの道具を調べ、ワークシートの1に書き込ませてください。台所には、水道やかまど、七輪があり、当時の炊事の様子を知ることができます。

ここでは、現在の生活との違いから電化される直前の生活を想像させるようにします。



探究館の社宅(約50年前)



火鉢



台所

また、探究館には、1日の時間の流れを設定し、そこに暮らす家族の会話や街角を通る人々の様子(映像)も復元されており、時代の雰囲気を感じることができます。ワークシートの2では、道具の中でも囲炉裏と火鉢、水がめと水道のように、移り変わりが見える道具をとりあげて、道具が変わることによって、暮らしがどう変化してきたかを考えさせます。

なお、博物館職員による昔の道具体験プログラムを活用し、昔の道具に直接触れたり、使ったりする学習もできます。

1 昔の道具を絵や文でかこう。

場所	ぶんかがくしゅうえん 文化学習園(約100年前の農家)	たんきゅうかん 探究館(約50年前の社宅)
見つけた道具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・囲炉裏</li> <li>・箱膳</li> <li>・はがま</li> <li>・水がめ</li> <li>・かまど</li> <li>・井戸</li> <li>・足踏み水車</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火ばち</li> <li>・はだか電球</li> <li>・大きいラジオ</li> <li>・木おけ</li> <li>・七輪</li> <li>・かまど</li> <li>・水道</li> </ul>

2 昔の道具のとくちょうや工夫、家の中の様子を、今の様子とくらべながら調べよう。

場所	100年前の道具	50年前の道具	今の道具
居間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 囲炉裏は暖房だけでなく、照明や調理器具としての役割を果たしていた。囲炉裏のまわりで、家族がそろってご飯を食べていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ はだか電球やラジオ等の電気製品がある。</li> <li>○ 火鉢は暖房だけでなく、お湯を沸かすこともできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 色々な種類の照明があって部屋が明るく、テレビやエアコン等の多くの電気製品がある。</li> </ul>
だい所	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ かまどで火おこしをしてから調理をしていた。</li> <li>○ 水は井戸から汲んできて、水がめに貯めて使っていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 七輪は持ち運びができ、どこでも調理ができる。</li> <li>○ 水道があり、水汲みをしなくてよくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ガステーブルや電子レンジで簡単に調理ができる。</li> <li>○ 水だけでなく、温水器でお湯を好きなときに使える。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 米づくりでは、電気を使わなくても動く道具を使って少しでも仕事を早くしたり、らくにしたりするための工夫をしていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一つの部屋で、食事や家族の団欒、子どもの学習をしていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 電気製品にタイマーがついていて、人がついていなくても調理をしたり、ビデオをとったりすることができる。</li> </ul>

3 100年前の人たちや50年前の人たちのくらしを調べて、考えたことを書こう。

- 今と比べて電気製品が少ない。自動のものがなく、自分たちの手や足を使って動かさなければならぬものが多いが、道具の使い方一つ一つに工夫が見られる。
- 昔の道具は、木や石、土など自然の材料を使ったものが多い。
- 今は、電気やガスを使って時間をかけずに食事の準備ができるようになっている。